

エコアクション21 環境経営レポート

登録事業者 : リサイクルテック・ジャパン株式会社
認証・登録番号 : 0 0 0 5 3 3 7
認証・登録日 : 2010年7月29日
対象期間 : 2023年3月1日～2024年2月29日
試行期間(関東工場) : 2023年3月1日～2024年2月29日
レポート発行日 : 2024年7月19日



明日の循環型リユース・リサイクルを創設する
リサイクルテック・ジャパン株式会社

環境経営レポート 目次

I

・ 環境経営方針

P1

II

・ 組織の概要等

P2-P8

III

・ 環境経営目標

P9

IV

・ 環境経営目標と実績

P10

V

・ 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容
・ 次年度環境経営計画

P11

VI

・ 取組状況 SDGsへの取り組み

P12

VII

・ 取組状況

液晶パネルリサイクル・太陽光パネルリサイクル・地域貢献活動・
清掃活動・内部監査・節電対策・防災訓練・教育訓練・認定書・証明書・
改善提案制度・災害対策検討会・なごやグリーンウェイブ2024植樹参加

P13-P18

VIII

・ 環境関連法規の順守状況の確認及び評価結果

P19

IX

・ 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

P20

X

・ 代表者による全体評価と見直し・指示

P20

I.環境経営方針

環境理念

リサイクルテック・ジャパン株式会社は、循環型社会実現のため、ゼロ・エミッションや廃棄物の有価物化を重要課題とする。資源のリサイクル・リユースの事業活動を通じてリサイクル・リユース技術向上に努めることでお客様や社会の要望に応え、社会に必要な存在として自主的かつ積極的に事業の拡大を図る。

- ①お客様の視点に立った品質管理
- ②環境関連の情報管理とCO₂削減
- ③Plan、Do、Check、Actionの実行により、風通しの良い目標必達の組織

環境行動指針

1. 弊社の事業活動全般について、環境に配慮し、以下の活動を具体的に推進し環境負荷の低減に努める。
 - ①環境に配慮して再生製品・再生原材料の販売提供に努めて、リサイクル・リユース技術向上によるゼロ・エミッション、廃棄物の有価物化に対する議論・研究・努力をする。
 - ②電気及び燃料の使用量を抑制し、二酸化炭素排出量を削減する。
 - ③エコドライブ運動を推進する。
 - ④廃棄物の発生の抑制及び分別処理の徹底を行い、廃棄物排出量を削減する。
 - ⑤節水を通して、水の使用量を削減する。
 - ⑥環境にやさしい製品の購入・調達を促進する。(グリーン購入)
2. 事業活動が環境に与える影響を認識し、環境目標を設定して継続的な環境活動を行う。
3. 環境に関する法律、自治体の条例及び弊社が同意するその他の環境関連要求事項を遵守する。
4. 見直しを定期的 to 実施し、環境経営システムの維持改善をする。
5. この環境方針を全社員に周知するとともに、情報の公開を図り地域との共生に努め、地域社会の信頼を得る。

2009年12月1日制定

2024年 2月1日改定

リサイクルテック・ジャパン株式会社

代表取締役社長 高取美樹

Ⅱ.組織の概要等

1. 名称及び代表者名

リサイクルテック・ジャパン株式会社 代表取締役社長 高取 美樹

2. 所在地

本社事務所 〒455-0041 愛知県名古屋市港区幸町一丁目46番地1
本社工場 〒455-0052 愛知県名古屋市港区いろは町四丁目7番
第二工場 〒455-0831 愛知県名古屋市港区十一屋二丁目13番
第三工場 〒455-0834 愛知県名古屋市港区神宮寺一丁目204番・205番
木場倉庫 〒455-0021 愛知県名古屋市港区木場町9番1
菰野倉庫 〒510-1312 三重県三重郡菰野町竹成字北砂川290-1、2
関東工場 〒300-4429 茨城県桜川市真壁町東矢貝922

3. 環境管理責任者氏名及び環境推進事務局連絡先

環境管理責任者：統括工場長 丹羽 環境推進事務局：管理部 久田
連絡先 TEL 052-355-9888 FAX 052-355-9887
URL <http://www.r-t-j.co.jp/>

4. 事業内容

- ・使用済遊技機部品のリユース、リサイクル
- ・電子部品、半導体リユース
- ・工場廃材の分別、リユース、リサイクル
- ・再生プラスチック原料の国内循環
- ・太陽光パネルのリサイクル、リユース
- ・産業廃棄物収集運搬及び処分業

5. 事業の規模

設立年月日 2003年3月18日
資本金 77百万円 <2023年3月1日現在>
売上高 3,464百万円 <2023年度(2023年3月1日～2024年2月29日)>

	本社事務所	本社工場	第二工場	第三工場	木場倉庫	菰野倉庫	関東工場(新規)	合計
従業員数	31名(0)	26名(133)	3名(6)	5名(3)	7名(22)	0名(0)	6名(25)	78名(189)
敷地面積	1,430.00㎡	4,777.02㎡	937.92㎡	2,761.28㎡	14,781.9㎡	2,983.89㎡	6,854.75㎡	27,672.01㎡
延床面積	1,889.79㎡	5,062.97㎡	545.10㎡	1,340.73㎡	2,920.00㎡	1,937.31㎡	3,160.00㎡	13,695.90㎡

受託した全ての処理量

()は派遣社員の人数です。

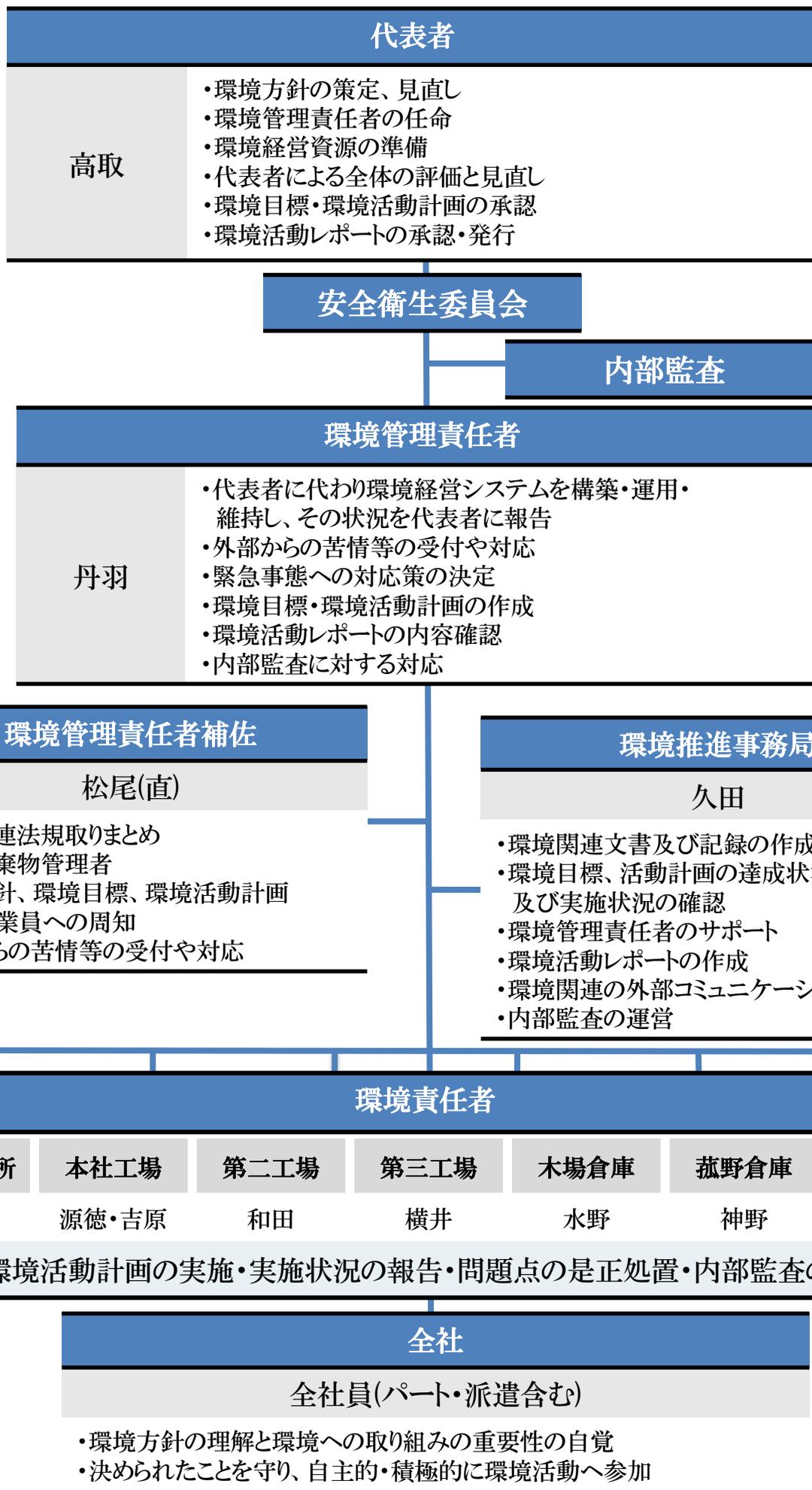
産廃の運搬量	481.0 t		
産廃の処理量	2,082.9 t	再資源化量	2,008.8t
			96.4 %
買取り品処理量 (使用済み遊技機等)	16,652.5 t	再資源化量	16,128.8t
			96.9 %

積み替え保管施設

名称	保管面積	保管上限
本社工場	16.97㎡	26.52㎡
木場倉庫	60.5㎡	5.1㎡
第三工場	9.9㎡	29.7㎡

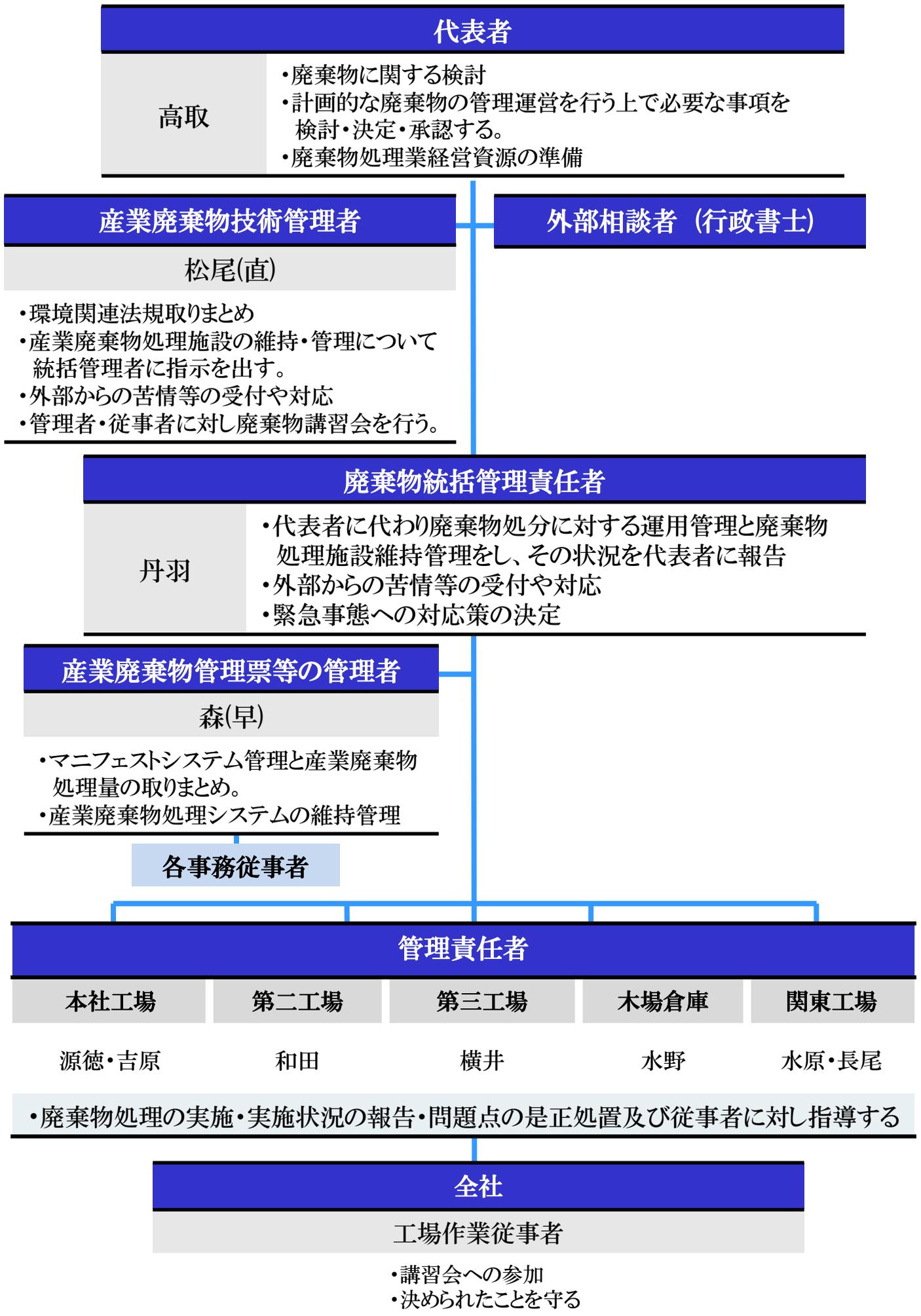
6. 事業年度 3月～2月

7-1. 環境管理実施体制図



※現在の内部監査は、自部署以外の部署を各環境責任者が相互に監査をしています。

7-2.産業廃棄物管理実施体制図



8. 許可の内容

産業廃棄物処分量の許可の内容

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	事業の範囲	廃棄物の種類								
				中間処理	※1 廃プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	金属くず	陶磁器くず※2	ガラスくず・ 陶磁器くず※3	処理したものを 処分する為	
名古屋市	06420105608	2023年8月1日	2028年7月31日	本社工場 破砕	○	○	○	○	○	○	○	○	○
				第二工場 破砕	○		○			○	○	○	
				第三工場 破砕	○					○	○	○	
				本社工場 圧縮	○					○	○	○	
三重県	02422105608	2021年5月24日	2026年5月23日	菰野工場 破砕※5	○					○	○		
茨城県	00821105608	2022年2月2日	2027年2月1日	関東工場	○		○			○	○		

- ※1 廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を除く)
 ※2 ガラスくず及び陶磁器くず(石綿含有産業廃棄物を除く)
 ※3 処分する為に処理したもの(廃パチンコ台の手解体により生じた木くずに限る)
 ※4 金属くず(石綿含有産業廃棄物を除く)
 ※5 菰野工場は現在、遊技機の入荷数減少により未稼働 許可取得のみ

産業廃棄物収集運搬業の許可の内容

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	廃棄物の種類							
					※1 廃プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	破砕物を除く 金属くず(自動車等)	陶磁器くず※2	ガラスくず・コンクリート	処理したものを 処分する為
愛知県	02300105608	2024年5月18日	2029年5月17日	無	○	○	○	○	○	○	○	
名古屋市	06420105608	2024年6月1日	2029年5月31日	有	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜県	02100105608	2024年7月21日	2029年7月20日	無	○	○	○	○	○	○	○	
三重県	02400105608	2024年5月24日	2029年5月18日	無	○	○	○	○	○	○	○	
長野県	02009105608	2019年3月18日	2029年3月17日	無	○		○		○	○	○	
福井県	01801105608	2023年3月30日	2028年3月29日	無	○	○	○	○	○	○	○	
石川県	01708105608	2023年4月 9日	2028年4月 8日	無	○	○	○	○	○	○	○	
富山県	01600105608	2023年4月 9日	2028年4月 8日	無	○	○	○	○	○	○	○	
和歌山県	03000105608	2023年5月 1日	2028年4月30日	無	○	○	○	○	○	○	○	
大阪府	02700105608	2023年5月 8日	2028年5月 7日	無	○	○	○	○	○	○	○	
静岡県	02201105608	2023年5月15日	2028年5月14日	無	○	○	○	○	○	○	○	
奈良県	02900105608	2023年5月24日	2028年5月23日	無	○	○	○	○	○	○	○	
滋賀県	02501105608	2023年5月28日	2028年5月27日	無	○	○	○	○	○	○	○	
兵庫県	02803105608	2023年6月26日	2028年6月25日	無	○	○	○	○	○	○	○	
京都府	02600105608	2023年7月 9日	2028年7月 8日	無	○	○	○	○	○	○	○	
神奈川県	01400105608	2019年1月18日	2029年1月17日	無	○	○	○	○	○	○	○	
東京都	13-00-105608	2019年10月18日	2024年10月17日	無	○	○	○	○	○	○	○	
千葉県	01200105608	2019年10月21日	2024年10月20日	無	○	○	○	○	○	○	○	
埼玉県	01100105608	2019年11月 8日	2024年11月 7日	無	○	○	○	○	○	○	○	
栃木県	00900105608	2019年11月27日	2024年11月26日	無	○	○	○	○	○	○	○	
茨城県	00801105608	2019年11月13日	2024年11月12日	無	○	○	○	○	○	○	○	
群馬県	01000105608	2019年9月20日	2024年9月19日	無	○	○	○	○	○	○	○	
山梨県	01900105608	2024年5月30日	2029年5月29日	無	○	○	○	○	○	○	○	

- ※1 廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)
 ※2 ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改装又は除去に伴って生じたものを除く)及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)
 ※3 処分する為に処理したもの(廃パチンコ台の手解体により生じた木くずに限る)

9. 認証・登録の対象範囲

全組織：本社事務所、本社工場、第二工場、第三工場、木場倉庫、菰野倉庫、関東工場(新規)

全活動：リサイクル原料・リユース製品の取り出し及び再生事業、遊技機部品のアッセンブリー、産業廃棄物の収集運搬業及び処分業(中間処理業)



関東工場(新規)



本社事務所・本社工場



第二工場



第三工場



木場倉庫



菰野倉庫

10. 施設等の状況

中間処理

設置場所	施設	廃棄物の種類	処理能力
本社工場	破碎施設	廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を除く) 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスくず及び陶磁器くず(石綿含有産業廃棄物を除く) 処分するために処理したもの(廃パチンコ台の手解体により生じた木くずに限る)	2.18t / 日 0.87t / 日 3.75t / 日 0.86t / 日 3.04t / 日 4.35t / 日 3.75t / 日
	圧縮施設	廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を除く)	0.6t / 日
第二工場	破碎施設	廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を除く) 木くず 金属くず ガラスくず及び陶磁器くず(石綿含有産業廃棄物を除く) 処分するために処理したもの(廃パチンコ台の手解体により生じた木くずに限る)	1.4t / 日 4.14t / 日 3.45t / 日 3.38t / 日 4.14t / 日
第三工場	破碎施設 破碎選別施設	廃プラスチック類(ガラスくず及び陶磁器くずの付着物に限る。石綿含有産業廃棄物を除く) 金属くず(ガラスくず及び陶磁器くずの付着物に限る) ガラスくず及び陶磁器くず(石綿含有産業廃棄物を除く)	8.74t / 日 32.13t / 日
菰野工場	破碎施設	廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を除く。廃遊技機から発生するものに限る) 金属くず(廃遊技機から発生するものに限る) ガラスくず等(石綿含有産業廃棄物を除く。廃遊技機から発生するものに限る)	16.17t / 日 25.75t / 日 35.92t / 日
関東工場	破碎施設	廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を除く。水銀使用製品産業廃棄物を除く) ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 金属くず 木くず	2.60t / 日 3.85t / 日 2.80t / 日 3.46t / 日

※ 第三工場の破碎施設は破碎機が複合ラインの為、名古屋市の許可通りの表記とする。

※ 菰野工場は現在、遊技機の入荷数減少により未稼働 許可取得のみ。

11. 車両台数

収集運搬車両 合計 3台



10t(バン) 1台

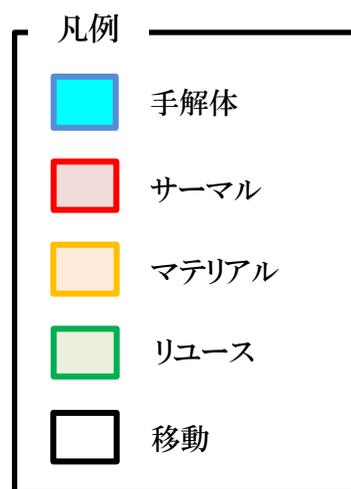
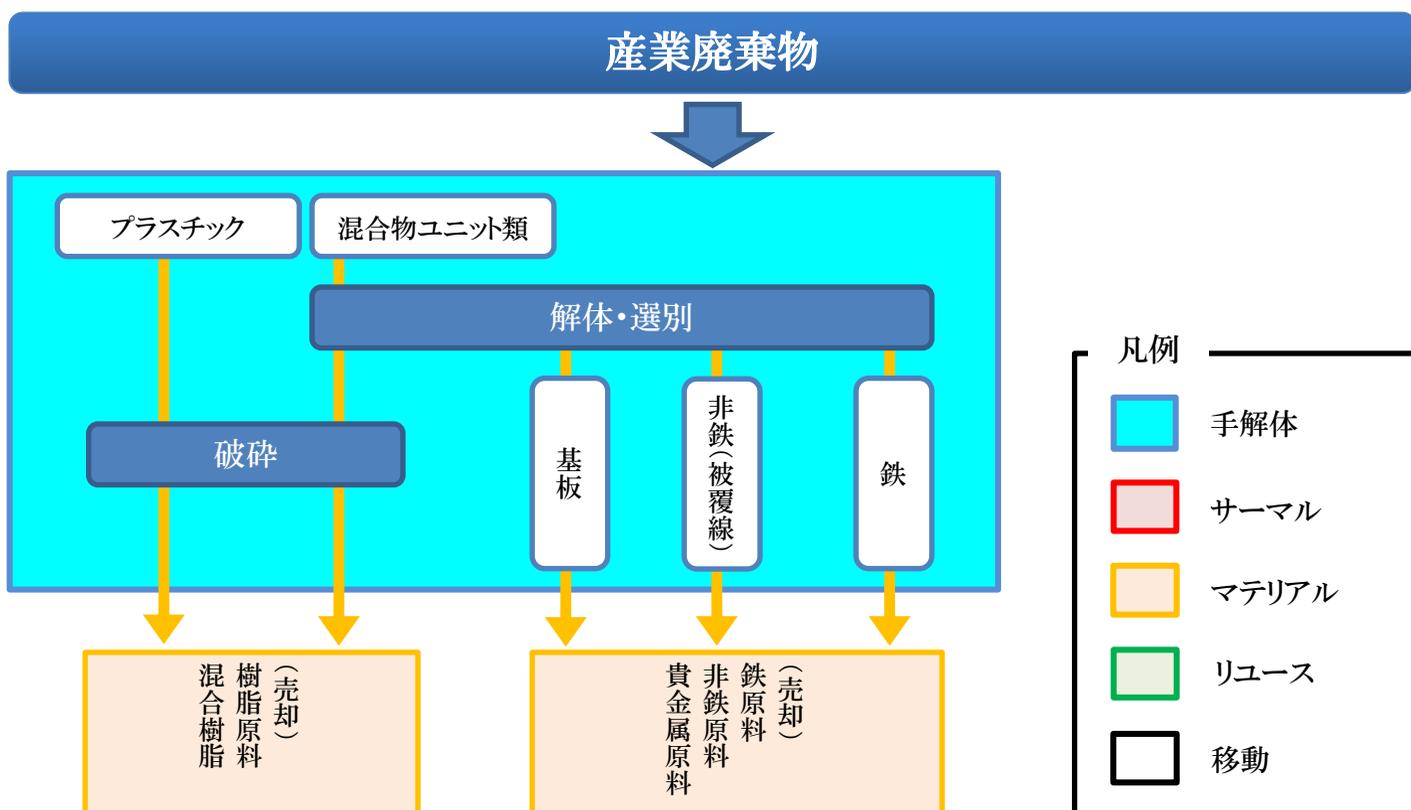
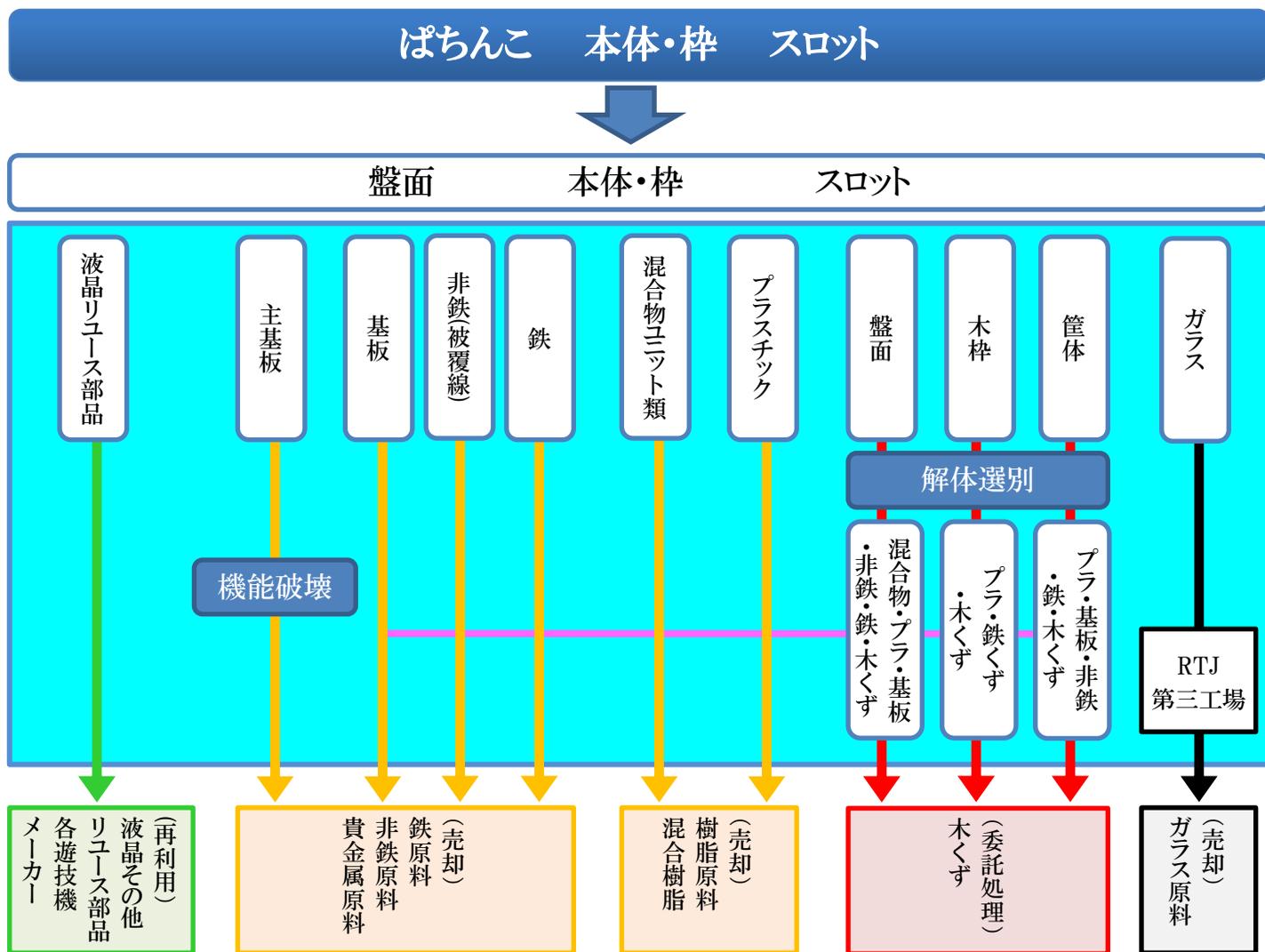


4t(バン) 1台

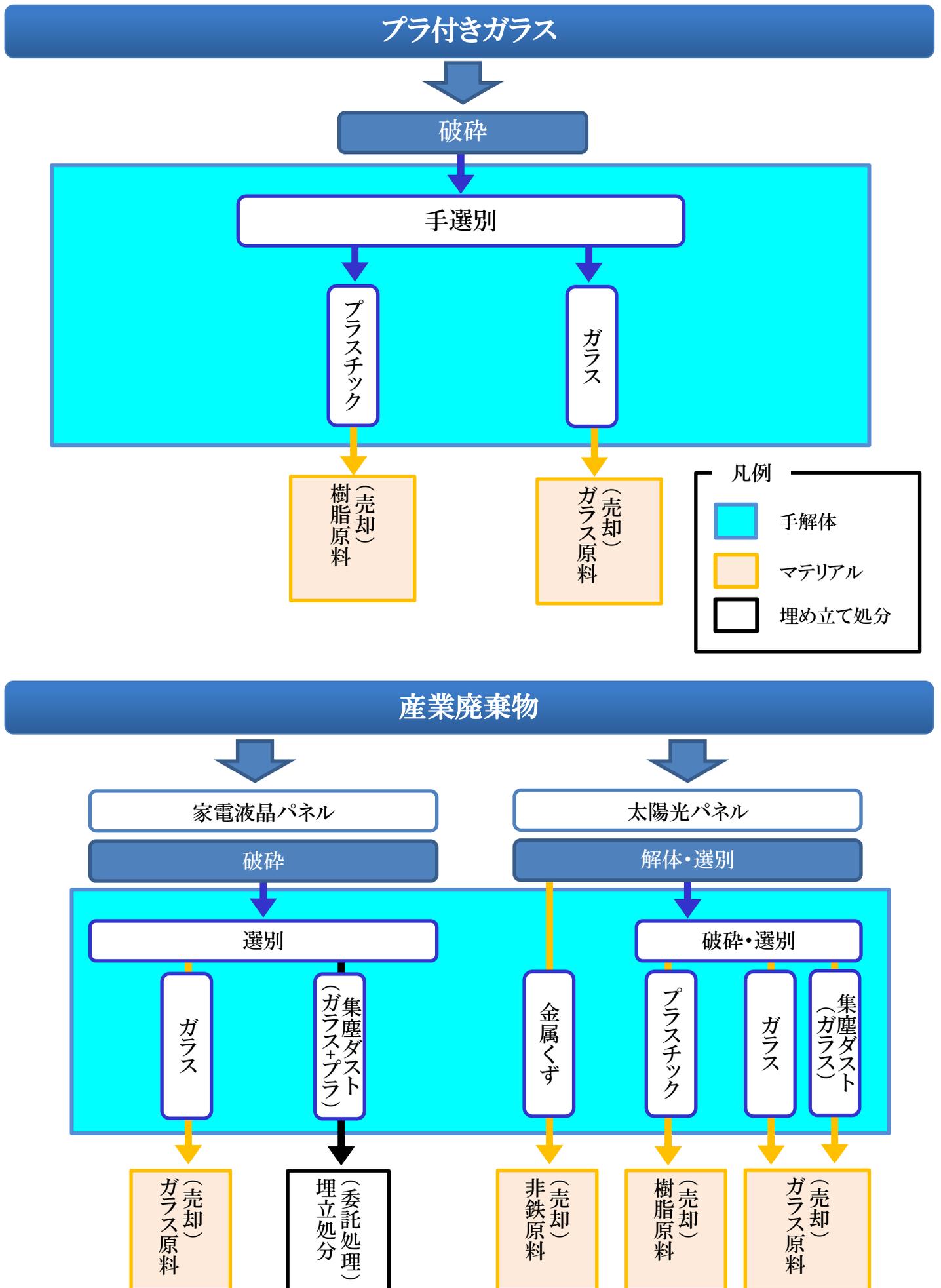


ハイエース(バン) 1台

本社工場・第二工場・関東工場 処理工程図



第三工場 処理工程図



Ⅲ.環境経営目標

年間目標

環境方針	環境目標	※1 基準値	単位	目標		
				2023年3月～ 2024年2月	2024年3月～ 2025年2月	2025年3月～ 2026年2月
1-①	リユース 金額アップ	16,990	万円	5%増 17,840	7%増 18,179	10%増 18,689
	環境教育	3	回	3回	3回	3回
1-②	電気量 削減	956,998	kWh	—	—	—
		371,315	kg-CO ₂	—	—	—
	※2			5%削減	7%削減	10%削減
	電力原単位	56.327	kWh/万円	53.511	52.384	50.694
1-③	4t燃費	5.38	km/L	5.43	5.48	5.53
	10t燃費	3.48		3.53	3.58	3.63
	ハイエース	11.17		11.22	11.27	11.32
	給油量	22,376	L	—	—	—
総CO ₂		58,603	kg-CO ₂	—	—	—
※3 1-③	営業車②	15.11	km/L	15.16	15.21	15.26
	営業車⑤	18.82		—	18.87	18.92
	営業車⑥	18.06		—	18.11	18.16
	クラウン	20.36		—	20.41	20.46
	タウンエース	10.25		10.30	10.35	10.40
	給油量	5,059	L	—	—	—
総CO ₂		11,748	kg-CO ₂	—	—	—
1-④	一般廃棄物 削減			5%削減	7%削減	10%削減
		8.9	t	8.5	8.3	8.0
1-⑤	水使用量 削減	2,359	m ³	5%削減 2,241	7%削減 2,194	10%削減 2,123
1-⑥	グリーン購入	年3品目購入	品目	4品目購入	5品目購入	6品目購入
5	地域社会活動	年12回	回	12回/年	12回/年	12回/年

※1. 2022年3月～2023年2月の実績を基準値とした。

※2. リユース数量に直接リンクする電気については原単位でも定めた。中部電力ミライズより電気を購入しているので令和3年度の電気排出係数0.388 kg-CO₂/kWh、CO₂排出係数は「中部電力ミライズの調整後排出係数令和3年度」に準拠している。運転条件の変動、リユース数量により大幅に増加する場合がありますので変動がある場合は目標値の見直しを行う。仕事量が増えると電気使用量が増加するため原単位での評価とする。

※3. 軽油による二酸化炭素は排出量を把握するため総使用量も併記した。軽油二酸化炭素排出量2.619kg-CO₂/L。仕事量が増加すると給油量も増加するため数値は記載するが目標値として評価しない。積荷の量・渋滞状況などにより多少誤差は出ると思われる。

※当社に於いて、化学物質の使用はない。※当社はガスの使用量がほとんどない為、環境目標から除外した。
※木くずはパチンコヤスロットが入荷すると増加する。木くずは数量として把握するが環境目標には入れない。

IV.環境経営目標と実績

取組期間の目標と実績

環境方針	環境目標	※1 基準値	単位	目標	実績	達成状況	評価
				2022.3～ 2023.2	2022.3～ 2023.2		
1-①	リユース 金額アップ	16,990	万円	5% 増加 17,840	13% 減少 14,825	×	新規遊技機の変更に伴い旧遊技機のリユース部品は使用しなくなったため
	環境教育	3	回	3 回	5 回	○	朝礼などで周知徹底
1-②	電気量	956,998	kWh	—	990,379	—	仕事量が増加すると使用量が増加するため評価しない
		371,315	kg-CO ₂	—	384,267	—	
	電気量削減 電力原単位	※2 56.327	kWh/万円	5% 削減 53.511	16% 増加 66.805	×	エアコン増設、関東工場のベルトコンベアー稼働により使用料増加
※3 1-③	4t燃費	5.38	km/L	5.43	5.39	×	近場での走行増
	10t燃費	3.48		3.53	3.22	×	近場での走行増
	ハイエース燃費	11.17		11.22	11.52	○	走行距離増
	軽油給油量	22,376	L	—	21,518	—	仕事量が増加すると使用量が増加するため評価しない
CO ₂	58,603	kg-CO ₂	—	56,357	—		
※3 1-③	営業車②	15.11	km/L	15.16	15.81	○	菰野往復増
	営業車⑤	18.82		18.87	21.34	○	大阪往復増
	営業車⑥	18.06		18.11	22.54	○	走行距離増
	クラウン	20.36		20.41	19.14	×	使用頻度が少ないため
	タウンエース燃費	10.25		10.30	14.93	○	走行距離増
	ガソリン給油量	5,059	L	—	5,452	—	
CO ₂	11,747	kg-CO ₂	—	12,660	—	仕事量が増加すると使用量が増加するため評価しない	
総CO ₂ ※4	441,946	kg-CO ₂	—	467,771	—		
1-④	一般廃棄物削減	8.9	t	5% 削減 8.5	8% 削減 8.2	○	コロナが終息し外食増の為お昼ご飯のゴミが減少した
1-⑤	水の使用量削減 ※5	2,359	m ³	5% 削減 2,241	19% 削減 1,917	○	節水を周知徹底させた
1-⑥	グリーン購入	年3品目購入	個	4品目購入	4品目購入	○	購入のほとんどがグリーン購入
5	地域社会活動	年12回	回	12回/年	12回/年	○	全社で清掃活動に取り組んだ

※1. 2022年3月～2023月の実績を基準値とした。

※2. リユース数量に直接リンクする電気については原単位でも定めた。中部電力ミライズより電気を購入しているため令和3年度の電気排出係数0.388 kg-CO₂/kWh、CO₂排出係数は「中部電力ミライズの調整後排出係数令和3年度」に準拠している。運転条件の変動、リユース数量により大幅に増加する場合がありますので変動がある場合は目標値の見直しを行う。仕事量が増えると電気使用量が増加するため原単位での評価とする。

※3. 軽油による二酸化炭素は排出量を把握するため総使用量も併記した。軽油二酸化炭素排出量2.619kg-CO₂/L仕事量が増加すると給油量も増加するため数値は記載するが目標値として評価しない。タウンエースは距離数が少ないためガソリンを入れるタイミングで燃費の変動が大きいと思われる。

※4. 総CO₂は電気・軽油・ガソリン・ガスを足したのになります。2019年度ガスCO₂排出量 281.16kg-CO₂、2020年度ガスCO₂排出量 313.98kg-CO₂、2021年度ガスCO₂排出量 391.62kg-CO₂、今年度ガスCO₂排出量 447.84kg-CO₂

※5. 関東工場の水道使用量は家賃に含まれ、個別には把握できないため節水の取組を適切に行うこととする。

○・・・目標達成

△・・・基準値よりは改善できたが目標達成できなかった

×・・・基準値より悪化した

—・・・評価除外

V. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

環境目標		活動内容	実施状況の評価 (2023年3月～2024年2月)	実施状況	手順書	担当者	次年度計画
リユース金額アップ		リユース部品の金額を増やし販売する。資源のリサイクル・リユースの事業活動を通じてリサイクル・リユース技術向上に努める	遊技台の新機種に旧タイプのリユース部品は使用できないため一時的に減少している。	○			継続
環境教育		①朝礼で全社員に教育する。	全体朝礼で5S、エコアクション21の説明をする。従業員の環境への意識が高まった。	○			継続
		②液晶パネル太陽光パネルリサイクル技術習得	第三工場の太陽光パネルリサイクル実証実験中。				継続
CO ₂ 排出量の削減	電気量の削減	①冷暖房の温度設定の管理を徹底する。本社（夏季 27℃/冬季 20℃）工場（夏季 24℃/冬季 21～23℃） ②使用時以外・退社時の場所の消灯管理と、昼休みの節電をする。 ③冷暖房のフィルターを毎週掃除する ④Fun to Shareの参加。(旧チャレンジ25) ⑤全熱交換器の有効活用。 ⑥消費電力モニタリングシステムで管理する。 ⑦LEDへ変更する。	①運用チェックシートを活用する事で、温度管理の徹底をする従業員の前向きな姿勢が感じられた。 ②消灯管理活動は習慣となりつつあるので今後も継続を図る。 ③掃除をするとエアコンの効きが良くなる。 ④CO2削減に向けた運動への参加。 ⑤手動切り替えの周知徹底。 ⑥上限を超えないように監視する ⑦徐々にLED化している。	○	○	環境責任者	継続
	ガソリン削減 燃費の向上	エコ運転操作カードを配布する。エコドライブを推進・徹底してトラックの燃費を向上させる。	仕事量により増減するので燃費で計算する。トラックの燃費計算、日常車両点検の実施。運転手へのエコドライブ講習の実施。新しい車両の購入	○	○	事務局	継続
一般廃棄物削減		①両面印刷、両面コピーの徹底をする。裏紙の活用をする。 ②一般廃棄物のデータ管理により削減・抑制を図る。 ③透明分別ボックスでゴミと資源の分別を図る。	①裏紙BOX・カウント記録の活用により、両面コピー・2UP印刷の徹底を図ることができた。 ②データ管理を開示することにより削減・抑制を図ることができた。 ③透明分別ボックスにより確実にゴミと資源の分別ができた。	○	○		継続
水の使用量削減		①節水の呼びかけとラベルを貼る。 ②水漏れの確認	①各自の節水に対する責任感が強くなった。 ②水漏れが無いか今後も定期的に確認する	○	○	環境責任者	継続
グリーン購入		グリーンマーク表示または環境マーク表示等を優先的に購入することとする。できる限り詰替え可能な商品を購入する。	購入は総務のみとし、詰替え可能商品を優先的に購入した。	○	○	環境責任者	継続
地域社会活動		施設周辺の清掃活動を月1回実施する。	歩道を中心に月1回以上実施できた。事業所ごとに回数は異なるが実際には月1回以上実施している。清掃活動は全社員が自主的・積極的に行った。	○			継続
内部監査		11月に実施する。内部監査員がチェックシートに基づき監査する。	関東工場は5月に実施	○	○		継続

当社に於いて、化学物質の使用はありません
なお、次年度活動計画は、基本的に今年度の活動内容を継続実施していく方針である。

○・・・実施できた
△・・・完全には実施できてなかった
×・・・実施できなかった

VI. SDGsへの取り組み

リサイクルテック・ジャパン株式会社は、循環型社会実現のため、ゼロ・エミッションや廃棄物の有価物化を重要課題としております。資源のリサイクル・リユースの事業活動を通じてリサイクル技術の向上に努めることでお客様や社会の要望に応え、社会に必要な存在として自主的かつ積極的に事業の拡大を図ることを環境理念としております。

その活動の一環としてSDGsの理念を支持し、事業活動と社会貢献を通じて、目標達成に貢献します。



サーキュラーエコノミー（循環型経済）への取り組み



消費主導型経済を改め、資源の循環を通じて経済成長を実現させる

【主な取り組み】

- ・ 廃棄遊技機の解体・分別による鉄・非鉄・プラスチック等の再資源化により、限りある地球資源の有効活用を進める
- ・ 廃プラスチックの再生利用に取り組むことで地球規模の課題である海洋プラスチックの削減に貢献する
- ・ リサイクルによる再資源化と合わせ、環境負荷の低いリユースの比重を高めることで、よりCO₂削減への貢献を果たす
- ・ 廃棄太陽光パネルの分別リサイクルに取り組むことで、最終処分となる廃棄物の抑制に取り組む



地域貢献への取り組み



事業活動を通じた地域活性化への貢献及び地元貢献活動を継続的に実践する

【主な取り組み】

- ・ 事業活動を通じ地元人材の雇用を進める
- ・ 地元新卒者を継続的に採用する
- ・ 日々、会社周辺の清掃活動を実践する
- ・ 地域の活性化を目的とし地元行事への積極的参加と寄付に努める



環境保全への取り組み



事業活動が与える環境負荷の極小化を目指し、エコアクション21の環境行動方針に基づいた活動を実践する

【主な取り組み】

- ・ リサイクルリユース技術の向上に努める
- ・ エコドライブ運動を推進する
- ・ 環境にやさしい製品の購入を促進する（グリーン購入）
- ・ 廃棄物発生抑制及び分別処理を徹底することで廃棄物排出量を削減する
- ・ 電気及び燃料の使用量を抑制し二酸化炭素排出量を削減する
- ・ 節水を通じて水の使用量を削減する



労働環境の整備への取り組み



従業員の健康増進と労働環境の整備に取り組むとともに、ダイバーシティ経営に向け、従業員が働きやすい職場づくりを実践する

【主な取り組み】

- ・ 産業医の設置による従業員健康のサポート体制を堅持する
- ・ 安全衛生委員会の定期開催を継続する
- ・ 女性の積極的登用により、女性が安心して活躍できる職場環境の醸成に取り組む
- ・ 外国籍の方、障害者の方が安心して働ける職場環境を提供する

VII.液晶パネルリサイクル

経済産業省の補助を受け、
現状の熔融処理とは全く異なる、
マテリアルリサイクルシステムを開発

廃棄となった液晶テレビの液晶パネルをガラスとその他に分別して、マテリアルリサイクルをしています。
また遊技機で使用されたガラスについても第三工場に運搬し、適正に処理をしています。



《液晶パネルリサイクルライン》



コンクリート2次製品



建材タイル



VII.太陽光パネルリサイクル

2013年に国内初の太陽光パネル専用のリサイクルラインを導入、環境省の実証事業に参画するなどして実証実験を繰り返しながらリサイクルのノウハウを蓄積してきました。

我が国における再生可能エネルギー(再エネ)の主力である太陽光発電は、2012年に固定価格買取制度(FIT)の導入が後押しとなって、加速度的に普及しました。この太陽光発電に使用する太陽光パネル(太陽電池モジュール)は、製品寿命が約25~30年とされています。そのため、FIT開始後に始まった太陽光発電事業は2040年頃には終了し、その際、太陽光発電設備から太陽光パネルを含む大量の廃棄物が出る事が予想されています。弊社は、太陽光パネルリサイクルのトップランナーとして、太陽光パネルの再資源化に取り組むことで、環境保護に貢献していきたいと考えております。



VII. 地域貢献活動

本社事務所・第二工場・第三工場・関東工場にAEDを設置済。
2023年5月24日に44名の方がAED講習を受講しました。
事故や災害の場所に居合わせた際、人命救助に有効とされているAEDを使用できるようにするために、定期的にAED講習を実施しています。



町内で毎年5/3に開催される
コミセン祭りに寄付

コミセンまつり終了



5月3日(祝)開催

※開催風景は6月号で予定

リサイクルテック・ジャパン様

【協賛企業】ありがとうございました

赤い羽根募金



売上の一部が施設で働く障がい者の方々に還元される自動販売機です。2023.4~2024.3の期間で66,645円の寄付



2022年4月本社工場東隣
金毘羅神社の参道を修繕



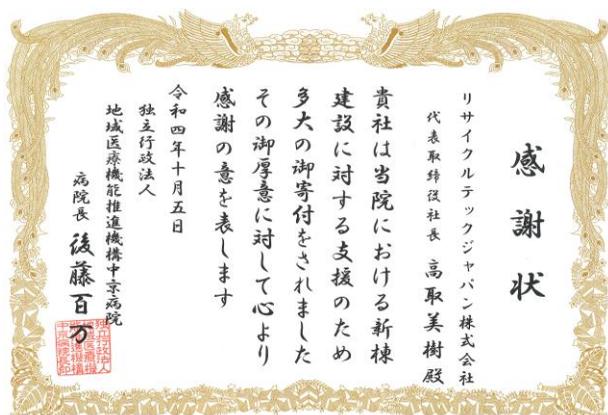
盲導犬協会
2023.3~2024.2の期間で
28,583円の寄付



盲導犬協会へ寄付ができる
自販機設置
本社工場・関東工場



中京病院
2025年竣工予定
新棟建設と医療
機器整備のため
の支援金寄付



VII. 工場周辺の清掃活動

清掃場所



工場周りの清掃



Ⅶ. 内部監査

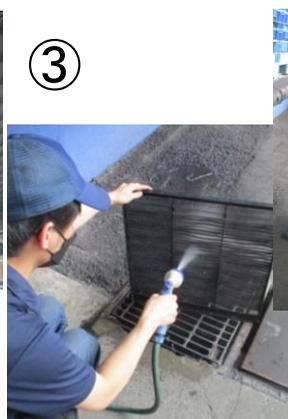
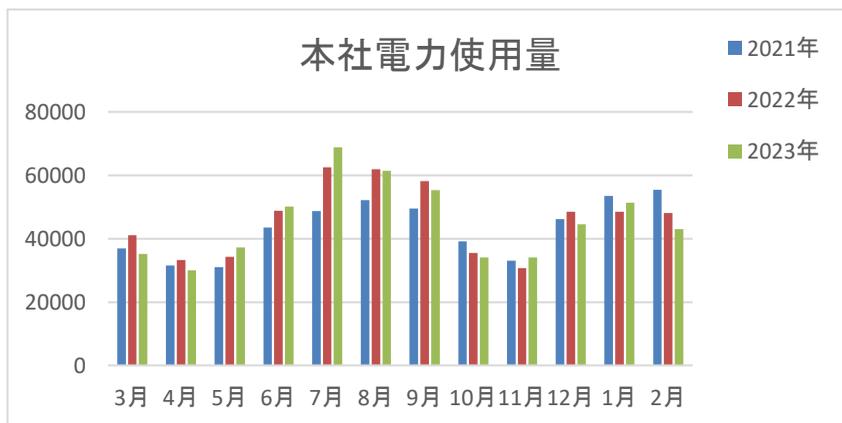
代表者から任命を受けた内部監査員が本社事務所・本社工場・第二工場・第三工場・木場倉庫・関東工場(新規)を対象に環境活動の実施状況、環境マネジメントシステムの構築状況について内部監査チェックリストに基づき、内部監査を行いました。

環境管理責任者が内部監査の結果を見て一部に改善が望まれる事項について指導がありましたので改善を行いました。今回の結果は次回の内部監査で再度確認することとしています。



Ⅶ. 節電対策

2018年8月より本社に消費電力モニタリングシステムを導入しております。夏場にエアコンの室外機への「給水噴霧」機能を導入することによって、エアコンの負荷を下げることで消費電力を抑制することができました。2023年7月が増加していますがエアコンが本社工場西棟に追加設置になったことが影響しています。



- ①5月～6月に全てのエアコンをクリーニングしてクーラーの効きを良くしています。
- ②本社事務所ではサーキュレーターを使用してエアコンの風を攪拌し、隅々まで行き渡らせています。
- ③毎週金曜日にフィルタ掃除をして電気効率を上げています。

Ⅶ. 防災訓練

2023/11/28 本社工場にて地震による火災発生を想定した通報訓練、避難誘導訓練及び初期消火活動訓練を名古屋市消防局港消防署ご協力の下で行いました。第二工場・第三工場・木場倉庫・関東工場も実施済みです。

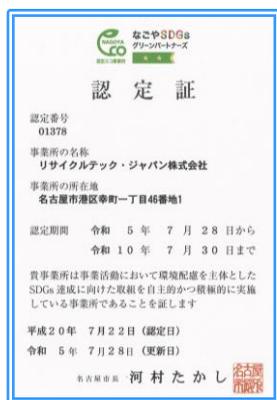


Ⅶ. 教育訓練

環境教育やリサイクル・リユース技術向上によるゼロ・エミッション、廃棄物の有価物化に対する議論・研究・努力する教育を実施しています。



Ⅶ. 認定書・証明書



SDGsの実現に向け取り組む事業所を、名古屋市が「なごやSDGsグリーンパートナーズ」として登録・認定し、自主的な取組を支援するものです。



※エコドライブマスター設置事業所
エコドライブマスターとは、事業所において、継続的かつ効果的にエコドライブを推進しようとする者として、名古屋市が認定した方のことです。市が実施するエコドライブマスター認定講習会を受講し、本社工場が追加認定されました。



※リコーグループ環境経営報告書に優良廃棄物処理委託業者として掲載していただきました。

VII. 改善提案制度

仕事の能率UP・コスト削減・環境改善・ヒヤリハットなどの考案や意見などを書いて提出する改善提案制度を推進しています。提案書に必要事項を記入して、リーダーまたは所属長へ提出し、毎月25日に開催される安全衛生委員会にて改善提案の採用・不採用を決めています。

8月と12月には社長優秀賞と社長特別賞を表彰し、掲示板に優秀な事例の内容を掲示しています。

安全衛生委員会の様子



改善提案の表彰の様子



2023年8月表彰改善提案		2023年12月表彰改善提案	
社長優秀賞		社長優秀賞	
提案者	大木 隆夫	提案者	大木 隆夫
所属	1001	所属	1001
提案内容	...	提案内容	...
社長特別賞		社長特別賞	
提案者	伊藤 謙一	提案者	伊藤 謙一
所属	1001	所属	1001
提案内容	...	提案内容	...

VII. 災害対策検討会

2024/1/25 第一回災害対策検討会、第二回は2/7、第三回は2/28に開催し、災害マニュアルの策定・安否確認システムの導入・備蓄品について協議した。今後も継続的に続けていく



VII. なごやグリーンウェイブ2024植樹参加



VIII.環境関連法規の順守状況の確認及び評価結果

法規制等の名称	適用事項	取組状況	評価
廃棄物処理法	廃棄物排出の際の適正処理 産業廃棄物委託契約書締結 処分先の現地確認	保管基準の遵守(表示、衛生管理等) 許可業者に委託(許可証を確認) 処理状況をマニフェストで管理・5年間保管 処分委託先確認表で確認 マニフェスト交付等状況報告書提出	○
消防法	木くず・10㎡以上、廃プラスチック・3t以上 火災報知機の設置(工場500㎡以上) 消防用設備等の点検と報告 3年毎の施設定期査察 消防訓練の実施 甲種防火管理者の選任	指定可燃物等貯蔵取扱い開始届 消防用設備等設置届出書 消防用設備等点検結果報告書 消防訓練実施届 甲種防火管理者選任届出書	○
プラスチック資源循環促進法	① プラスチック廃棄物の排出の抑制、再資源化に資する環境配慮設計 ② ワンウェイプラスチック(一度だけ使用した後に廃棄することが想定されるプラスチック製品)使用の合理化 ③ プラスチック廃棄物の分別収集、自主回収、再資源化	「プラスチック使用製品設計指針と認定制度」や、「製造・販売事業者等による自主回収・再資源化」、「特定プラスチック使用製品の使用の合理化」、「排出事業者による排出の抑制・再資源化等」、「市区町村によるプラスチック使用製品廃棄物の分別収集・再商品化」	○
振動規制法	振動規制基準値70デシベル以下(本社工場) 振動規制基準値65デシベル以下(第二工場) 振動規制基準値70デシベル以下(第三工場 7時～20時) 振動規制基準値65デシベル以下(第三工場20時～7時) 空気圧縮機(本社工場)・22.5kW 空気圧縮機(第二工場)・15.7kW 空気圧縮機(関東工場)・22.0kW 摩砕機(第三工場)・75kW	名古屋市環境局南西部公害対策課 設置届受理書 規制基準の遵守	○
騒音規制法	騒音規制基準値70デシベル以下(本社工場) 騒音規制基準値65デシベル以下(第二工場) 騒音規制基準値70デシベル以下(第三工場 8時～19時) 騒音規制基準値65デシベル以下(第三工場19時～22時) 空気圧縮機(本社工場)・22.5kW 空気圧縮機(第二工場)・15.7kW 空気圧縮機(関東工場)・22.0kW 摩砕機(第三工場)・75kW	名古屋市環境局南西部公害対策課 受理書 規制基準の遵守	○
家電リサイクル法	テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン、衣類乾燥機の適正廃棄。当社は冷蔵庫とエアコン・洗濯機が対象である。引取業者へ適正な引渡し	エアコン・冷蔵庫 廃棄あり リサイクル券 回収フロン破壊処理証明書	○
フロン排出抑制法	第一種特定製品の点検実施	・第1種特定製品の点検(簡易点検) ・規制基準の遵守	○
古物営業法	機械工具類の売買	古物商 許可証	○
県民の生活環境の保全等に関する条例 アイドリングストップ規制	自動車の駐車のために供する部分の面積が500㎡以上ある駐車場を設置し、又は管理している者は、看板、放送、書面等により、当該駐車場を利用する者に対し、当該駐車場内において自動車を駐車し、又は停車するときは、自動車の原動機を停止すべきことを周知。	エコドライブ10のすすめを配布 ハイブリッド車の購入、低公害車の購入に心がける。アイドリングストップ表示。 エコドライブマイスターの設置	○
自動車NOx・PM法	自動車から排出される窒素酸化物・粒子状物質に関する総量削減対策地区内で排気ガス規制に適合した自動車の使用	適正運転の実施 車両の維持管理	○
自動車リサイクル法	新車購入時または買い替え時リサイクル料支払い	売買契約書 請求書	○
グリーン購入法	環境に優しい商品の調達の推進	環境ラベル表示製品を優先的に購入する。	○
小型家電リサイクル法	パソコンのリサイクル化	廃棄なし	○

○・・・遵守できた

—・・・該当なし

×・・・遵守できなかった

※環境関連法規取りまとめ表は別紙あり。改訂がある場合は随時更新する。

IX.環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2024年5月30日に於いて、環境関連法規等の違反、訴訟はありません。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

X. 代表者による全体評価と見直し・指示

評価結果

環境経営システム	有効に機能している・機能していない
環境への取り組み	適切である・一部適切でない

変更判断・指示

環境経営方針の変更	有・無
環境経営目標の変更	有・無 (2022年度の実績を基準値とする)
環境経営計画の変更	有・無
環境経営システムの変更 実施体制の変更	有・無

実施日：2024年5月30日

評価者：代表取締役社長 高取 美樹

見直し指摘事項

- (1)環境活動を引き続き実施すること。
- (2)環境管理責任者・推進事務局は今後もエコアクション21の社内啓蒙活動を、より活性化
するよう図ること。改善提案制度を進めていくこと。
- (3)従業員の環境活動向上を図るため、活動結果は社内にはわかりやすくインパクトの
あるものにまとめて活動を促すこと。



評価

取組後14年が経過して社員への認知度も高くなってきております。

前回からの変化は関東工場が追加になり、対象範囲を拡大したことです。

関東工場はベルトコンベアーが常に稼働しており電気使用量が高くなっています。

夏の電力使用量ですが、各工場倉庫にエアコンを増設したため増加傾向にあります。

能登半島地震の発生を機に、企業防災の大切さを実感しました。防災・減災対策の強化のための災害対策検討会を開催し、災害マニュアルの策定・安否確認システムの導入・備蓄品について協議しました。

産業廃棄物処理業者として全社員に対して環境教育を実施し、廃棄物処理振興センター等の講習会を活用し個々のレベルアップを図ります。

また朝礼における周知や掲示板などを通じて、会社全体の環境経営計画や実績等について継続的に情報共有を行い、環境への意識向上が図られるよう活動して参ります。

2024年5月28日をもちまして東京証券取引所TOKYO PRO Marketへ上場いたしました。

社員一同、上場企業としての社会的責任を自覚するとともに、一層の努力を重ねて参る所存です。

